■山梨県東部・富士北麓地域における対応の基本方針について

検討経緯

- 山梨県内における道路の渋滞対策を効率的に進めていくため、「山梨県道路交通円滑化・安全委員会」※（以下「委員会」）において、道路利用者の皆様が実感している渋滞箇所等を「主要渋滞箇所」として特定しました。
- このたび、「地域の主要渋滞箇所」の対応の基本方針を「委員会」において検討し、決定しました。

※「山梨県道路交通円滑化・安全委員会」の構成員

○学識経験者	○山梨経済同友会	○甲府商工会議所卸売商業部会
○山梨県タクシー協会	○(一社)山梨県バス協会	○(一社)山梨県トラック協会
○(一財)山梨県交通安全協会	○(一社)日本自動車連盟山梨支部	○山梨県交通安全母の会連合会
○中日本高速道路(株)八王子支社	○山梨県	○山梨県警察本部
○国土交通省関東運輸局山梨運輸支局	○国土交通省甲府河川国道事務所	○国土交通省関東地方整備局道路部

H24.6 第10回委員会
↓
H24.8 第11回委員会
↓
H24.12 第12回委員会
↓
H25.1 主要渋滞箇所の特定
↓
H25.6 第13回委員会
↓
対応の基本方針の公表

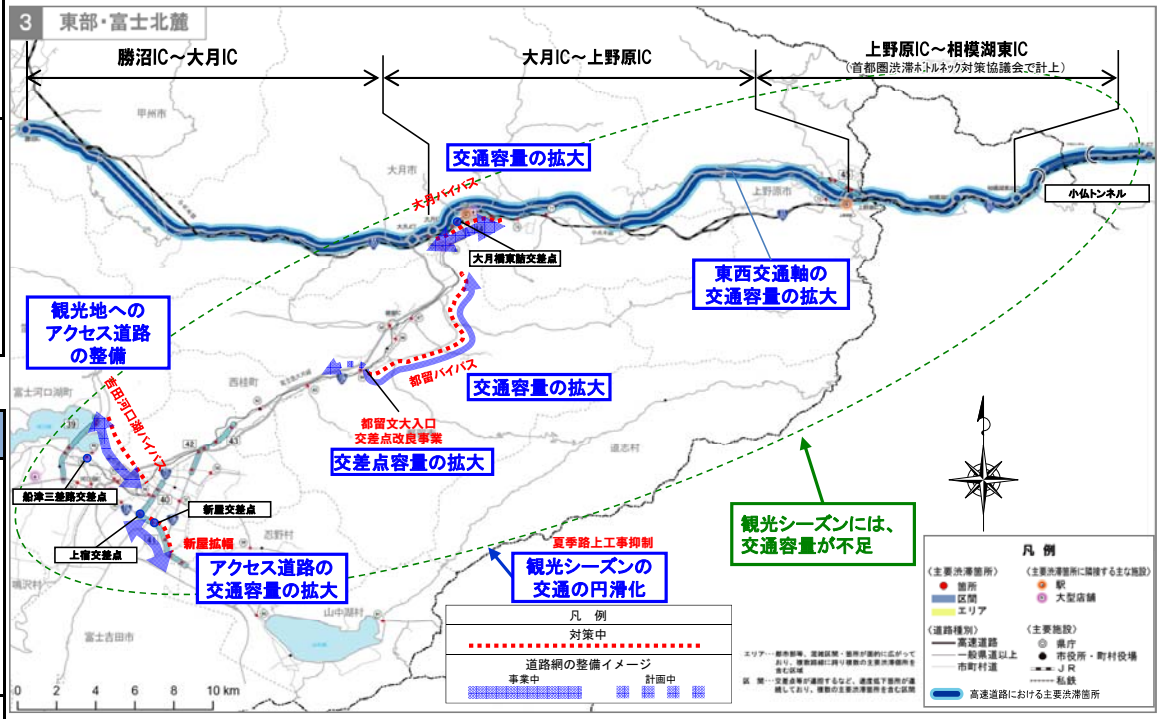
1. 山梨県東部・富士北麓の概況

	概　要
山梨県東部・富士北麓地域の状況	• 山梨県東部は首都圏からの入口にあたり、急峻な山地部であるため、小仏・大垂水峠といった峠やトンネルを介してJR中央本線や中央自動車道、国道20号で首都圏とつながっています。 • 山梨県富士北麓地域は、世界文化遺産に登録された富士山をはじめ、河口湖や山中湖、忍野八海、富士浅間神社などの自然、文化、観光レクリエーション施設が集積しており、年間約1,800万人の観光客が訪れる県内でも有数の観光エリアとなっています。 • 山梨県東部の主要都市である大月市は、東西方向のJR中央本線や中央自動車道、国道20号と都留市・富士河口湖町へつながる富士急行線や国道139号の分岐点に位置し、交通の要衝となっています。
道路交通状況	• 首都圏と山梨県の観光施設を結ぶ主要な幹線道路である中央自動車道では、休日や観光シーズンにおいて、観光交通により小仏トンネル～勝沼間で慢性的な交通渋滞が発生しています。 • 主要な観光施設が集中する富士北麓地域では、中央自動車道と東富士五湖道路の接続点である河口湖ICから国道139号や国道138号を経て富士浅間神社や忍野八海、山中湖方向にアクセスすることとなるため、上宿交差点や新屋交差点を中心に休日や観光シーズンに交通集中による激しい渋滞が発生しています。 • また、河口湖周辺には宿泊施設や飲食店が集中しており、沿道施設への出入り交通による直進車両の速度低下や船津三差路交差点などで交通集中による渋滞が発生しています。 • 山梨県東部における主要都市である大月市や都留市の市街地においては、国道20号や国道139号の道路幅員が狭隘な区間や国道20号大月橋東詰交差点や国道139号都留文大入口交差点などで朝夕の通勤・通学時間帯に交通集中による渋滞が発生しています。

2. 対策の方向性

	概　要
道路整備等	①休日や観光シーズンにおける観光交通に起因する渋滞対策 ・アクセス道路の渋滞対策 都市間の交通円滑化、主要な観光地である富士北麓地域へ首都圏からのアクセス道路の交通の円滑化のため、交通容量の拡大検討や道路ネットワーク整備を図ります。 →東西交通軸の交通容量の拡大検討（中央自動車道小仏トンネル周辺等の交通容量の拡大） ・観光地周辺における渋滞対策 観光交通による混雑を緩和するため、交通容量の拡大やアクセス道路の整備により混雑緩和を図ります。 →拡幅による車線増、交差点改良等（新屋拡幅、吉田河口湖バイパス等） ②市街地の朝夕の通勤・通学時に集中する交通による渋滞対策 ・交通容量の拡大や交差点の改良等のハード施策と交通誘導の見直し等のソフト施策を合わせて実施し、交通の円滑化を図ります。（大月バイパス、都留バイパス、都留文大入口交差点改良事業等）
ソフト施策	• 道路整備にあわせて、夏季の路上工事の抑制や適切な交通誘導などを実施して、交通の円滑化を図ります。

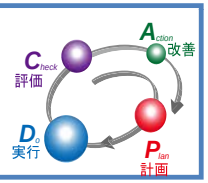
3. 山梨県東部・富士北麓の主要渋滞箇所と現在の対策等



今後の対応方針

・各主要渋滞箇所の渋滞対策について、既存道路ネットワークの有効利用に取り組むとともに、道路構造上の問題などを抱える渋滞ボトルネック箇所について各道路管理者や警察が連携し、道路利用者等の協力を得つつ詳細な検討を進め、検討箇所の抽出、渋滞要因の分析・対策の立案・実施を行なっていきます。

→休日や観光シーズンにおける観光交通に起因する渋滞対策や市街地の朝夕の通勤・通学時間帯に集中する交通による渋滞対策を実施し、対策効果を検証して参ります。

→中央自動車道の高井戸IC～上野原IC間において、WG（ワーキンググループ）を設立し、各道路管理者や警察が連携して対策等の検討を進めます。

・今後、渋滞箇所や渋滞状況が変わることが想定されることから、山梨県道路交通円滑化・安全委員会で主要渋滞箇所やその対応方針について見直しを行って参ります。（PDCAサイクル）